

<b>Title</b>	物語に学ぶ心の世界実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News 2014 年度 聖学院大学総合研究所 カウンセリング研究センター主 催 カウンセリングシンポジウム）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.2, 2015.1 :35-38
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=5250">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=5250</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2014年度  
聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター主催  
カウンセリングシンポジウム

## 物語に学ぶ心の世界

実施結果—アンケート集計結果の概要

物語の感動は、私たちの心や魂の深いところを揺さぶります。

今回もいろいろな物語を手がかりに、心や魂の世界を学びたいと思います。3つの物語を通して、愛の本質について、希望について、また、自分の心の物語を創り出すことについて、一緒に考えるひとときにしたいと願っています。

日 時：2014年11月14日（金）14:00～16:30（開場13:30）

場 所：聖学院大学ヴェリタス館教授会室

## 【プログラム】

開会挨拶 阿久戸光晴（聖学院大学理事長、院長）

## ■講 演

講演Ⅰ 「我が涙よ、我が歌となれ」

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授、同大学こども心理学科長）

講演Ⅱ 「最後の一葉」

堀 肇（聖学院大学大学院非常勤講師、臨床牧会カウンセラー・スーパーヴァイザー）

講演Ⅲ 「妖怪ウォッチ」

藤掛 明（聖学院大学大学院准教授、同大学人間福祉学部こども心理学科 准教授）

## 質疑応答

## 司 会

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授、同大学こども心理学科長）

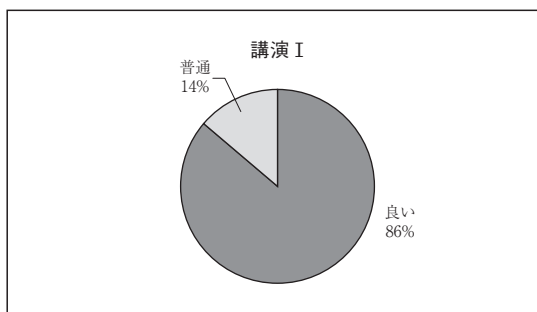
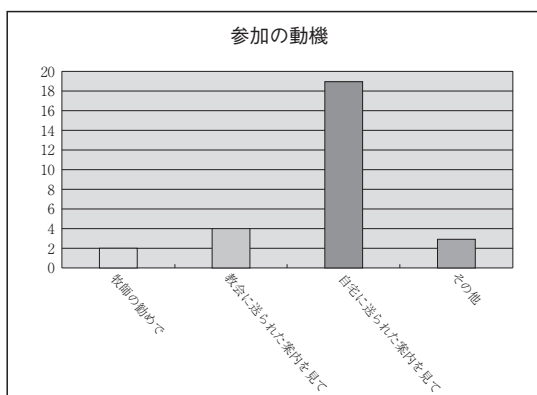
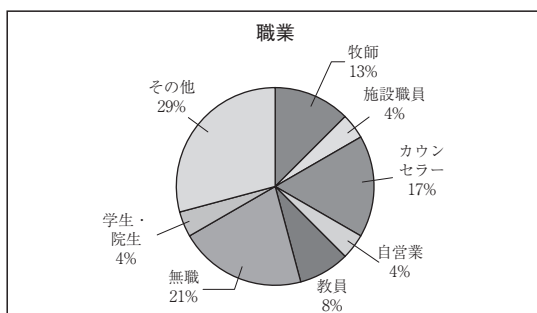
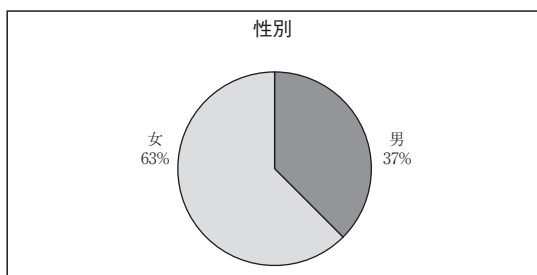
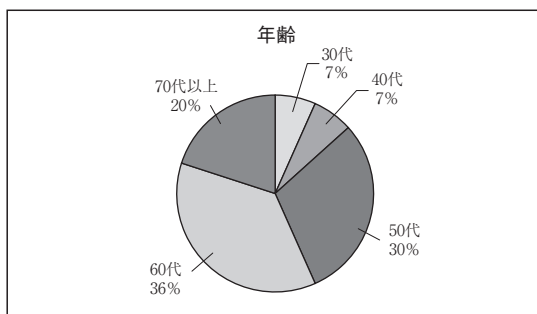
## 閉 会

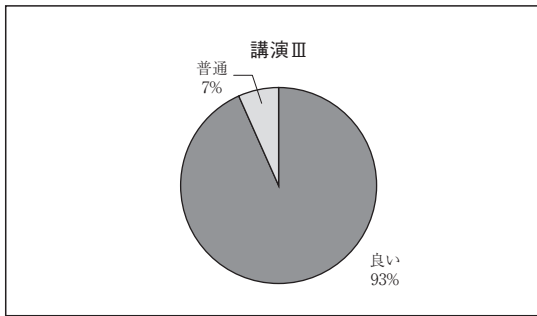
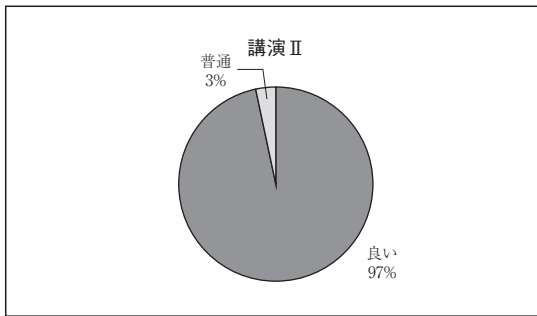
## 【結果の概要】

- ・参加者は50名。内、アンケート回答者30名。
- ・回答者のプロフィールとして、年齢は60代が最も多く、次に50代となった。性別は女性が6割。
- ・講演Ⅰについて「良い」という意見が86%、講演Ⅱは97%、講演Ⅲは93%と高い評価を得た。
- ・「示唆に富んだシンポジウムだった」「大変勉強になった」「新しいことに目を向けている大学だと感じた」など。

## 今後の講演会について

- ・「引きこもり」「うつ」「老人の孤独」などのテーマを希望します。
- ・今後も『物語に学ぶ心の世界』シンポジウムを続けてください。楽しみにしています。かぐや姫・きみべの時から楽しみに来ています。
- ・認知症の母の介護をしています。現在、その人数の多さなど問題になっていますが「認知症の信仰について」考えたいと思っています。





- ・同様の形の開催があれば、また参加したいです。「文字からみた心の世界」大変興味深かったです。「嘆きに場を与えてくれる人」…心に残りました。
- ・色々な視点から人の心を考えることが出来て良かったです。これからも現代人の心や生き方を考えるような内容を期待します。生きにくさに変化があるのか、何が今問題になるのか、世代の違いなど。
- ・別の物語についてもまた聞きたい。
- ・こども心理学科の授業で最近取り入れられている学問があったら、今後お話を聞きたいと思う。
- ・続きを又、開催してほしいです。物語で学ぶことに興味があります。
- ・日本人にとって何故キリスト教は身近になれるのか。また今後なり得るにはどうしたらよいのか。

## 自由意見

- ・子ども、大人の心理面接を仕事にしています。わかりやすく問題の外在化について、入り口をつくってくれた妖怪ウォッチを藤掛先生の視点で解説して頂き、非常に面白かったです。どうもありがとうございました。
- ・藤掛先生の「妖怪ウォッチ」は「外在化」という事にとっても興味が湧きました。ぜひ金曜日に

テレビを観てみたいです。ありがとうございました。

- ・クリスチャンでない私にとって堀先生のお話は分かりやすいものでした。藤掛先生のお話は興味深くとても面白かったです。小学生の子どもを持つお友達に伝えたいと思いました。
- ・幼児（３才）に絵本を読みたいと思いますが、どんな題名で中身の良い本など紹介してほしい。
- ・いつも新しいことに目を向けている大学だと思います。これからのさらなる発展を祈ります。
- ・よい学びの時を感謝いたします。暗いニュースばかりで、特に親が子どもを、子どもが親を、関係なく人を刺すニュースばかりの中で、「最後の一葉」でありたいと改めて思われました。この様に物語を通しての学びがこれからも、いや、これから必要なのではと思われました。ちなみに私は幼稚園に奉職しておりました時、「最後の一葉」は墨絵を書いてお話したことを思い出しました。キリスト教出版社より出ておりました『パンだね』を参考にしてです。このような集まりが多く開かれ多くの人が参加して「一人の人を慰めることが出来たら」…これが広がっていったらと思わされます。
- ・勉強になった。
- ・聖書の物語も面白いかなと思いました。孫の生活の中に一緒に入り込んで楽しめばと思った（妖怪ウォッチ）。
- ・窪寺先生のこの本に対する愛が伝わってきました。感謝です。日記も本人の「物語」、話も「物語」であると教えられました。堀先生の「嘆きの場を与えてくれる人の存在」が人を支えるという思想に深く共感しました。「もし一人の人を…」という言葉にも深く深く共感しました。そうありたいと思いました。ラミネートの「栞」のこととてもすばらしいと思います。
- ・藤掛先生の物語を書き換えるという視点を学びまして、「外在化」と、それをスタートということもとても役に立ちます。パウロの罪のとらえ方、とても興味深く教えられました。
- ・前に読んでいたものも含めて、もう一度読んでみたいと思いました。とても含蓄のある、示唆

に富んだシンポジウムで勉強になりました。

- ・妖怪ウォッチ、テレビアニメを観てみようと思った。ただ聞いているだけの身になって話をしていただきたい。話し方が早すぎて理解しにくい。ゆっくり大きな口を開けて話をしてほしい。惜しいです。内容が良いのに。質疑応答の時間を多くしてほしい。